

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4770700179 | | |
| 法人名 | 医療法人上善会 | | |
| 事業所名 | グループホーム星のふる里 | | |
| 所在地 | 沖縄県石垣市新川2105番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 25 年 7 月 17 日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年9月25日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4770700179-00&PrefCd=47&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 沖縄タイム・エージェント | | |
| 所在地 | 沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F | | |
| 訪問調査日 | 平成25年8月23日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の病院が接続していて、定期受診や急変時にも速やかに対応できる為、本人や家族は安心されています。大きなイベントには入居者全員で出かけています。家族の方も一緒に参加される時もあります。週2~3回は買い物したり、街並みを観たりしてドライブを楽しんでいます。地域との交流では近くの小学校との交流を図り、入居者が自分の孫の様に満面の笑みを浮かべて作品作り共同しながら交流していました。浮腫の方が数名いて、足浴、オイルマッサージ、テルミー等でむくみの軽減に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域において認知症ケア施設としての役割を担い、開設から10年を迎えた当事業所は、母体法人の病院や介護事業所が並ぶ同一敷地内にあり、日頃より、利用者の健康管理や急変時の対応・災害時の協力・各種研修や行事等の協力体制が構築されている。また地域密着型事業所として、地域との関係作りを目指し、新たな取り組みとして近隣保育園や小学校との交流や住民向けに「ゆいの心」を発行し、災害時の協力や事業所主催の講習会等への参加を呼び掛けている。運営推進会議には、利用者や家族の参加を支援し、各委員と共に外部評価での課題や事業所の取り組みについて意見交換し、運営に反映されている。事業所においても、職員意見を反映し、業務改善やサービスの質向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成25年9月18日

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 朝の申し送りで理念を読み上げ、ミーティング等で意見を出し合って話し合い、支援策を検討しケアに反映できるようにしている。 | 事業所開設時に独自で作成した理念を継続して掲げ、毎朝唱和し、職員間で共有している。また毎年、事業所のケア目標(今年は7項目)を設定し、いずれもフロアに掲示して、職員は日々のケアに取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 近隣住民への働きかけがまだまだできておらず努力している状況。近くの保育所や小学校との声かけにて、交流することができ、継続できる様に担当者と話し合っている。 | 地域との関係作りとして、近隣住民対象に秋祭りの案内や災害時の協力依頼、事業所主催の心肺蘇生法等の講習会参加を呼び掛ける「ゆいの心」を発行し配布している。また加入している自治会の活動が再開され、自治会長が新たに運営推進委員として参加している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域に貢献できることはあると思いますので、今後は同地区の自治会長や民生員の方と話し合っていきたいと思っています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議で取り上げられた意見、要望は、職員ミーティングで話し合い、見直しや改善があれば速やかに取り組むようにしている。 | 会議は、市の包括職員、利用者や家族・地域代表者が参加し、年6回定期的に開催している。会議では、事業所の状況、ヒヤリハットや事故、外部評価結果等が報告され、災害時の地域住民との協力体制作り等、委員と意見交換し、運営に反映されている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 入居者の変更が発生した場合は届け出をして、尋ねたい時は担当者からアドバイスを貰っているが、積極的な取り組みはないので、情報の共有と協力関係を密にしていきたい。 | 運営推進会議には市包括職員が参加し、情報を共有している。市担当者とは、入退去等の報告や相談事項が生じた時に窓口を訪問している。市からは研修情報等が提供され、敬老会等の事業所の行事には市担当者も参加し状況を伝える機会としている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中の玄関の施錠は行っていないが、夜の消灯(21時)以降は施錠している。身体拘束も行っていない。どうしても必要な場合は、全員で検討し、家族の同意を得て行う。 | 身体拘束をしないケアについては、方針やマニュアルを整備し、法人での勉強会や事業所で「言葉による拘束」等について確認し、共有している。現在、玄関の施錠はないが、夜間にセンサーを設置する利用者が2人いる。リスクは、利用開始時に説明されている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 現在、虐待はありません。以前に虐待の勉強会はありましたが、最近では対象者がいないので控えている。新人職員もいるので再度勉強会を実施して行きたいと思っています。 | | |

沖縄県(グループホーム星のふる里)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護に関する制度の勉強会を実施したいと思います。資料を集めて、年間を通して定期的に勉強会を実施して行きたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時に契約内容を説明し、質問がありましたら再度説明し、納得してもらってから署名を頂いています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関の横に意見箱を設置している。面会や訪問時に家族より苦情・意見があれば対応するようにしています。又、運営推進会議にてサービスについて家族に意見を伺うようにしています。 | 利用者の意見は、運営推進会議や日々のケアを通して聞いている。家族からは、運営推進会議や面会時等で聞いている。家族から、「女性の散髪は、美容室利用にしてほしい」等の意見に対応する等、運営に反映されている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員ミーティングや個人努力目標・勤務考課の面接時に意見や提案を求め、必要に応じて改善をしている。 | 職員意見は、毎月開催のミーティングや年2回の個別面談等で聞いている。業務改善に向けては、担当者を配置し、会議で検討されている。職員からの提案で、看護師への連絡体制、見守り体制と調理の効率化、業務マニュアルの見直し等、運営に反映されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 給与に関しては、個人の持つ資格や勤務の状態(夜勤手当等)により、手当てを支給している。法人全体の勉強会も定期的に行っており、職員の向上心に向けて取り組んでいる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人で介護福祉士の資格に関する勉強会に取り組んでおり、法人全体での研修報告会や勉強会等を行っており、参加を促してスキルアップに努めるよう声掛けしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 沖縄県グループホーム連絡会に加盟しており、情報は定期的に入ってきます。又、連絡会の管理者会議、研修会等にも参加をするようにして、交流を持ち情報交換している。 | | |

沖縄県(グループホーム星のふる里)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居したての方には慣れて頂く間、不満、不安な点、困ったことはないか等声掛けを多く持ち、本人の思いを確認している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居したての家族の方には、面会時に随時様子を報告し、サービスについて要望がないか、声掛けや確認をしようとしている。毎月「星のふる里だより」で行事・生活状況を写真でお知らせしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居した時に本人や家族の意向などを聞き出してアセスメントを行い、サービス計画を作成しています。その後相談があった時は、傾聴に努め思いを確認し、支援計画を見直しています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は、入居者本人に声掛けをしてお互いの協力関係を築いていく。職員には、ミーティング等で、「相手の立場たった考え方」をするように促している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ホームでの行事(家族交流会、敬老会等)や外での行事等には家族に声掛けして参加を促しています。家族関係の構築を大事にするとともに、外出や外泊の希望があればその都度支援しています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会は大いに奨励しています。毎週外出を希望する家族の方がいますので、その都度支援しています。家族はもちろんのこと、親戚・友人・隣近所の方の面会も受け入れています。 | 利用者と地域社会の関係性は、本人や家族、親戚や地域の人から把握している。事業所は、ドライブで利用者が暮らしていた家や馴染みの地域を訪問したり、ハーリー等の地域行事に出かける等支援している。知人や友人等の来訪を歓迎し、交流を支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | レクリエーション等で集う時はさりげなく輪の中に入れてもらって動作のサポートを職員が行うことで入居者同士の関係が支えあえるような支援を心掛けています。 | | |

沖縄県(グループホーム星のふる里)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 行事等には家族の方にも参加を促し、入居者・家族の関係をフォローしている。相談があれば話を伺って関係性を大切にしています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 話しのできる方には意向を伺うようにし、出来ない方は本人の状態からの観察や家族からの聞き取りで本人の思いを把握する様努めています。 | 利用者の意向は、日々の会話を通し「外出したい」や「洗濯物たみがしたい」等を把握し、日中活動に反映させている。発語等困難な場合は、家族の情報や利用者の表情・行動から把握に努めている。また担当制を実施し、利用者毎の思いの把握に取り組んでいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時の面談、その後の面会等において、家族の方より本人の今までの生活歴等を伺って、ケアに活かすようにしています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 申し送りでは、個別にしっかり行っています。特に問題のある入居者に関しては、入居者担当や職員ミーティングで話し合っています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族からの要望、意見があれば話し合いを持つようにしています。定期的に担当者会議を持ち、内容によっては職員ミーティングで再度話し合うようにしています。 | サービス担当者会議には、利用者や家族が参加し、意向を確認し、主治医等の意見も踏まえて介護計画を作成している。調査対象期間内に、随時の見直しがなく確認できなかったが、3ヵ月毎のモニタリングの実施と定期的見直しが行なわれている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録は日々の状態・状況を記入しています。サービス計画書に活かせる様、特変・気付いた事等があったら担当者で話し合い、職員ミーティングで職員の確認を得ている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 病院受診や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力しています。 | | |

沖縄県(グループホーム星のふる里)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の民生委員とは2ヶ月に1回はお会いして地域の情報・資源を話し合っているが、隣近所の方との交流や、地区の活動がまだ十分とは言えないので、今後努力して取り組んでいきたい。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 主治医は隣接の病院にいますので、いつでも受信できる状況にある。他科受診の時は家族と一緒に行く場合と、家族だけで受診する時がある。 | 利用者全員が法人の医療機関をかかりつけ医とし、日頃より利用者の健康管理や急変時の対応等連携している。定期受診は家族や職員が同行し、他科受診は必要に応じて代行や同行、送迎のみも支援している。受診時は情報提供し、結果は家族から聞いている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師は施設との兼任で常時ホームにいるわけではないので、毎朝看護師に入居者の状況を報告している。異常がある時は指示を仰いでいる。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院の際には、入院先の病棟担当ナースの協力を得て、情報を得る様にしています。家族の方の不安軽減や意向の伝達を行っています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居した時に、重度化や終末期に向けた確認はできているが、まだ実践がないので看取りの勉強会は定期的に続けていこうと思っています。 | 重度化や終末期に向けては、対応方針が策定され、利用開始時と更新時に説明し、意向を確認している。現在、対象となる利用者はいないが、終末期ケアの対応に向けて、「看取りの作法と家族、スタッフへのグリーフケア」等、職員の勉強会が実施されている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時の対応については職員ミーティングでも行っている。職員には新職員もいるので、消防署と連絡を取り、AED・心肺蘇生訓練の実施に向けて進めたい。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 職員は消防訓練にて、避難方法は理解できていると思いますが、地域の協力体制が不十分なので、隣近所の参加を呼び掛けて行こうと思っています。 | 年2回、消防と連携した夜間想定消防訓練と自主訓練が実施されている。訓練時は、法人の協力を得ているが、地域住民の参加はなく、「ゆいの心」を配布し災害時の協力を依頼している。防災設備は整備されているが、マニュアルは火災と台風のみで備蓄も用意されていない。 | あらゆる災害を想定した対応マニュアルや備蓄の整備と地域住民の訓練への参加等、災害時の協力体制作りに取り組んで行く事が望まれる。 |

沖縄県(グループホーム星のふる里)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言葉かけはケアの重要な要素であることから職員には気をつけて対応するように促しているが、完全とは言い難いので、今後も継続して勉強会を行っていく。 | 管理者は、ミーティング等で、利用者を人生の先輩として尊重し、言葉かけは命令調にならないようにと伝えている。接遇やプライバシーについて勉強会も実施されているが、居室側のトイレは、ドアがなく短い暖簾が設置され、廊下から男性トイレを使用する姿が視界に入る状況である。 | 排泄時のプライバシーの確保について検討され、廊下から見えない工夫等、環境整備が望まれる。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | すべての思いを表現できる方は少ないので、コミュニケーションを図り、その人の思いや希望がかなえられる為にも、自己決定ができるように働きかけていきます。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の暮らしにはその人それぞれのペースがあります。枠にはめたりせずに、本人の意向・気持ちを大切にしながら個人単位で過ごして頂いています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入浴日や服を着替える際には、本人に選んで頂いたり、入浴後の整髪等も自分でできる方は本人にやって頂くよう、支援しています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 朝・昼・夕食前に入居者と一緒にお膳を並べたり洗い物したり、ホワイトボードにメニューを書いてもらったりしています。又、ご飯前には野菜の皮剥きやもやしのひげとり等をして残存機能を生かした支援をしています。 | 法人の管理栄養士が作成の献立を活用し、食材は、利用者と一緒買い出しに出かけ、三食共事業所で作っている。利用者は、下ごしらえや配膳、食器洗い等に参加している。管理者が利用者と一緒食事を摂り、他の職員は休憩と食事介助を行っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分摂取量については、毎日の水分をチェック表に記入して1日の補給量の目安にしている。食の少ない方には高カロリードリンクを飲用して必要なエネルギーを確保するようにしています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、1人ひとりの口腔ケアの確認、介助をしています。どうしても1人ではできない方には職員が支援しています。入れ歯の方には洗浄剤で清潔を保つようにしている。 | | |

沖縄県(グループホーム星のふる里)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を用いて本人の排泄パターンを読み、トイレへの時間誘導をしています。入居者全員がトイレを利用し、個々の表情・仕草等で察知して、タイミングがずれないようにしています。 | 利用者の排泄パターンを把握し、昼間は介助の必要な方2人を含め、全員トイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルトイレの利用者もいるが、時間をみてトイレでの排泄を促している。失敗時は自尊心を傷つけないよう更衣等、支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘症のある家族からは、プルーンを持参して、自力排便できるように試みている。便秘症の方には主治医と相談してしています。予防として、椅子からの立ち上がり運動や、ウォーカー歩行、散歩等、体を動かすことに取り組んでいます。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 基本的には午前中入浴していますが、拒否があった場合等には時間をおいて、再度促してみてもだめでしたら翌日に入ってもらいます。入浴を楽しみにしている方もいるので、できるだけ自分のペースで入ってもらいます。 | 入浴は週3回を基本としているが、希望に応じ毎日の入浴も支援している。同性介助を希望する利用者には対応されているが、体制上異性介助の時は、了解を得ている。入浴を拒否する場合は、無理強いせず、時間を変えての声かけや翌日に支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 1人ひとり生活習慣が違いますので、本人の睡眠リズムに合わせて休息を支援しています。本人の眠り心地のいいように環境を整えたりして、本人に合わせて生活しています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 内服薬はチェック表で確認してから与薬している。薬に変更があれば、その情報を職員全員で共有するようにしています。症状の変化があれば受診しています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人の残存能力を活かして頂けるよう、出来る作業は協力してもらっている。ドライブで買い物と一緒に楽しんだり、三味線を弾いて皆さんと一緒に歌ったりして楽しんでいます。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 敷地周辺散歩を歩ける方、車椅子の方一緒にその日の天気を見て散歩をしています。ドライブも週2~3回あるので希望の方は声掛けして支援しています。 | 日常的に法人敷地内の散歩や草花の水やり、食材の買い物等に出かけている。季節や地域の行事に合わせて、聖紫花の花見や浜下り、ハーリー見学等に出かけ気分転換を図っている。また個別の買い物や家族の協力を得て毎週末の外泊も支援している。 | |

沖縄県(グループホーム星のふる里)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 1名のみ入居当初から現金を所持しているが、最近は殆ど財布をさわることもなく申し出もない。時々、職員が金額の確認をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 以前は電話の要求をする方がいたが、今は殆ど電話の話はなくなった。家族からの電話はある程度時間に関係なく取次するようになっている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ベランダからはサトウキビ畑が見渡せ、中庭でのお茶会は自然を満喫できる。フロアの広さは十分とは言えないが、9名の方が生活するには丁度いいくらいと思います。 | 利用者が思い思いに過ごせるよう、フロアにはテレビやソファ、椅子を配置し、畳間を必要とする利用者には専用の畳スペースを設けて対応している。トイレ入り口は場所が確認し易いよう提灯に表示され、ホールには小学生との交流で作成したカレンダーが飾られている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアにカンファレンス用に置いてあるテーブルやソファを置いて、普段の生活でも面会時でも居室以外の場所で過ごすことができる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室のレイアウトは本人と家族で相談し、自宅から馴染のもの、思い出のあるものを持ってきてもらっているが、難しい方もいますので個人差がある。本人の機能や転倒防止の観点から職員も交えて話し合い、配置を決めたりしている。 | 居室にはベッドやタンス、洗面台等が備え付けられ、希望者にはテレビを設置している。利用者は三線やラジオ、自作の船の模型等を持ち込み、希望に応じて畳ベッドにする等、利用者に合わせて居室になっている。居室の清掃を日課に位置付けて支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室のベッドサイドに日めくりのカレンダーがあり、入居者は毎日朝めくっている。日めくりカレンダーは家族の方をお願いしている。フロアにも日めくりカレンダーを設置して、他の入居者が毎日めくっている。 | | |